

## 式辞

早咲きの予測がされていた今年の桜、みなさんのこの記念日を待っていたかのように咲き誇り、花びらが美しく舞い、祝福してくれています。令和六年度入学式をかくも盛大かつ厳粛に挙行できますことはこの上ない喜びです。ご参列いただきました皆様に心より厚く御礼申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました附属中学校四十名、高等学校二百四十名の入学生のみなさん、ご入学おめでとうございませう。皆さんの入学を心待ちにしていた本校職員を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきます。

みなさんは茨城県立下館第一高等学校の第百三回生として、そして同附属中学校五回生として入学を許可されました。本校は創立以来、商業科、工業科、総合学科、普通科、附属中学校併設と、時代の要請に対応する変化を惜しまない最先端の学校として、自主自立の校風のもと、地域の期待と希望を背負い、知徳体を鍛え育み、社会で活躍する優秀な人財を数多く輩出し、郷土の発展に寄与してきたことは言うまでもありません。令和五年度に創立百周年を迎え、次の歴史の幕をともに開けることができるのはとても楽しみです。

さて、皆さんの新しい生活への幕開け、今、どんな景色を見て、どんな気持ちでいるでしょうか。教育活動全体で様々な経験の場を散りばめ準備してみなさんを待っていました。まずは安心して本校の流れに身を任せてください。特に「疑問？(はてな・クエスチョン)」と「なるほど！(びっくり・エクスクラメーション)」のコンビによる体験のため、自主的、主体的に多くのことにトライして欲しいと思います。誰しも、疑問だったことの答えが見つかった時の爽快感や達成感、その成功体験に嫌な思いをすることは無いと思います。どうしても節目には試験があるため、教科科目の学習では知識量に眼を奪われがちですが、これから先は探究に代表されるように、教科の枠では収まらず、様々な要因が融合した複雑な問題に直面し、多くを結集しなければ解決できないことばかりに出会います。こんなときこそ、「？」を楽しむ人が集り、高い知識を持ちより、協働して、知識を使い、合意形成することで突破口が見いだせるものだと考えます。皆さんには本校での学びから多くの成功体験を得て、貪欲に学びを深め、協働の中心で社会をリードする人財として、地域から世界を見通せる人物になってほしいと願います。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませう。生徒の成長は共通の願いです。学校教育は家庭教育の基盤の上に積み重ねられるものです。家庭、学校、地域の三者がともに手を携えて、生徒の成長を見守ってまいりたいと思いますのでご理解とご協力をお願い致します。

入学生のみなさん、今日の喜びと感謝の心を忘れることなく、有意義な学校生活を送ってください。多くの仲間を作ってください。一生の宝を持ちきれないほど手に入れてください。みなさんの笑顔や生き生きとした学校生活を祈念し、式辞といたします。

令和六年四月九日

茨城県立下館第一高等学校・附属中学校長 木村 功